

登録コード:MH424300 開講年度:2026		授業科目区分	専攻専門科目	必修
科目名	老年期作業療法学 【20M以降】 Geriatric occupational therapy II			
担当教員	務臺 均			
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	作業療法学専攻 / 3年生 前期 水曜・2 時限			
単位数、講義室	1 単位	保健学科 1 2 1 講義室	保健学科診断訓練実習室	遠隔授業科目
信大コンピテンシー	該当			
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素		授業の達成目標	
	MH20カリ・保健			
	保健・医療において生じている現象を分析し、健康問題を解決するために必要な科学的根拠に基づいた判断の進め方について理解することができる。		高齢者に多い疾患について、医学的知識を修得し、症状、手術手技、リスクなどを説明することができる。	
	保健・医療の専門職者として必要な感性を磨き、基本的知識・技術を獲得して、さまざまな状況で活用できる。		高齢者に多い疾患について、作業療法の評価方法および実践方法を修得し説明することができる。吸引の目的と手技が説明できる。	
	MH25カリ・保健・作業、MH23カリ・保健・作業			
	基礎的・専門的な知識と技能 保健・医療専門職者に必要な幅広い教養と基礎的・専門的な知識・技能を修得し、さまざまな状況で活用できる。		高齢者に多い疾患について、医学的知識を修得し、症状、手術手技、リスクなどを説明することができる。	
授業で学べる「テーマ」	健康長寿			
	科学の探求力 変化し続ける社会で派生する多様な課題に対して、地域・国際的な視点から、科学的・倫理的・道徳的・創造的に課題に対応していく探究心と、課題克服や目標達成に向けて生涯をかけて取り組む力が身についている。			
全学横断特別教育プログラム				
授業概要	脳血管障害、骨折、脊椎疾患、認知症といった高齢者に多い疾患について、医学的な基礎知識、画像評価、作業療法の評価および治療についての知識・技能を学習する。また、喀痰吸引に関する基本的な知識や技能を学習する。 本授業は、1年次に学んだ「生理学」「解剖学」「作業療法学概論」、2年次に学んだ「内科学」「日常生活支援論」「高齢者リハビリテーション概論」「整形外科学」「老年期作業療法学」の知識が前提となります。そして、本授業の内容は、3年次後期に学ぶ「臨床技能演習」および4年次の「臨床実習」における重要な基礎知識・技術となります。 本授業は、担当教員の医療機関における作業療法士としての実務経験を活かして講義を行います。			
授業計画	第 1 回（4月15日）高齢者の脳血管障害（脳機能と画像評価、脳血管障害の特徴） 第 2 回（4月22日）高齢者の脳血管障害（リハビリテーションと作業療法）小テスト 第 3 回（4月30日）高齢者の脳血管障害（上肢機能へのアプローチ）小テスト 第 4 回（5月13日）高齢者の脳血管障害（事例検討） 第 5 回（5月20日）高齢者に多い骨折（大腿骨頸部骨折/転子部骨折，画像評価）小テスト 第 6 回（5月27日）高齢者に多い骨折（大腿骨頸部骨折/転子部骨折，事例検討）小テスト 第 7 回（6月 3日）高齢者に多い骨折（橈骨遠位端骨折，画像評価）小テスト 第 8 回（6月10日）高齢者の多い骨折（橈骨遠位端骨折，事例検討）小テスト 第 9 回（6月17日）脊椎疾患（医学的知識と画像評価）小テスト 第10回（6月24日）脊椎疾患（事例検討）小テスト 第11回（7月 1日）認知症（医学的知識）小テスト 第12回（7月 8日）認知症（治療と作業療法）小テスト 第13回（7月15日）認知症（対象者との関わり方、予防）小テスト 第14回（7月22日）認知症（事例検討）小テスト 第15回（7月29日）吸引（実習含む）、授業アンケートの実施、小テスト 第16回（8月 5日）期末試験			
授業の進め方	基本的には配布資料にそって講義形式で行う。第15回の吸引の時は講義とシミュレーターを用いて実習を行う。 授業のはじめに前回の授業内容について小テストをする。第1, 3回は小テストを行わない。 第4回目に行う小テストで、2, 3回の内容の小テストを行う。			
テキスト、教材、参考書	配付資料が主となる 参考書 ・田平隆行（編）：老年期障害作業療法学テキスト 南江堂 2025			
成績評価の方法	毎回の授業のはじめに実施する小テスト（50%）、期末試験8月5日（50%）を合計して成績を評価する。復習テスト、期末試験ともに、授業で教えた内容、授業で用いた資料、参考書から出題する。 達成目標の高齢者に多い疾患についての医学的知識、手術手技、リスクの知識、作業療法の評価方法および実践方法の知識、吸引についての知識を小テストおよび期末試験にて確認する。吸引の実技については講義中に確認する。			
成績評価の基準	これらの採点の基準は、達成目標に関連した設問に対する選択肢解答の正誤だけでなく、記述式解答における用語の適切さ、説明内容の範囲の広さや詳細さ、説明内容の論理的な			

成績評価の基準	妥当性などを指標とし、授業で説明した範囲における最低限の解答内容であれば「水準にある（可）」、やや詳細な解答内容であれば「やや上にある（良）」、十分に詳細な解答内容であれば「かなり上にある（優）」、授業で説明した範囲以上に自身で能動的に学修した詳細な解答内容であれば「卓越している（秀）」と判定します。 成績の基準は以下の通りとします。 90-100点：秀 80-89点：優 70-79点：良 60-69点：可
事前事後学習の内容	【事前学習について】 事前にe-ALPSに掲載した資料に目を通しておく。 【事後学習について】 毎回、授業のはじめに、前回の授業の要点についてテストを行いますので、授業で配布した資料や授業で紹介した資料を十分に復習してください。 本授業の単位修得には45時間の学習が必要であるため、以下のような学習時間を必要とします。 授業時間30時間（2時間×15回）＋自己学習時間15時間（1時間×15回）＝45時間
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	質問・相談は教員が南校舎2階務台研究室に在室の場合は、随時受け付けます。またEメールでの質問やアポイントの連絡も随時受け付けます。 Eメールアドレス（務台）：hitmutai@shinshu-u.ac.jp